

第4回 CNCP パワーアップセミナー 開催報告

常務理事 教育研修委員会 委員長 有岡 正樹

CNCP サービス提供部門教育研修委員会では、去る8月30日午後、第4回 CNCP パワーアップセミナーを開催し、練馬区で2001年～2013年にわたって実施された「市民協働まちづくりの事例」を学ぶ機会を得た。講演者を含め30名の定員に対して33名が参加の盛況で、その開催概要について以下に報告しておきたい。

1. 開催の主旨

住民と行政の“協働”には種々のものがあり、住民の参加の在り方も様々である。

練馬区は、昨年度都市計画マスタープランを改定した際、近年行われたまちづくりにおける“協働”の取り組みを、代表的な8つの事例として「まちづくりカルテ」の中でまとめている。それらはいくつかの視点で右表のように整理されている（後述の小場瀬令二氏講演 PPT 資料より）が、そのうち6件が市民側の提案であり、また協働の始まりが計画段階、事業実施中、さらには完成後等多岐多様であったことから、“協働”が生み出された背景とその実態から、今後、“協働”をどの様にして広め、推進すべきかを学び、ワークショップ形式で質疑応答、意見交換を行うことを企画した。

事例	協働の働きかけ	協議を始めた段階	主たる協議の場	住民グループの結成	まちセンターの支援	主な専門家	事業手法等	その後
①放射35号線通路	住民	実施中	住民	都市MP参加	なし	ジェネラル	まちづくり交付金	
②江古田密集事業	行政	計画・実施中	行政・住民	都市MP前後	街として支援中	コンサル	密集市街地	
③中村橋バリアフリー	行政	計画	行政・住民	(都市MP後)	なし	地元	区事業	
④光が丘カエル池	住民	完成後	住民	都市MP参加	活動助成	技術専門家	区事業	管理清掃
⑤白子川	住民	計画	行政・住民	都市MP前	活動助成	大学+地元	河川整備	普及啓発 清掃管理
⑥みんなの広場公園	住民	計画	住民	都市MP前・後	活動助成・技術支援	まちセン	区事業	運営清掃 管理
⑦千川通りまっぶす	住民	計画	住民	都市MP参加	活動助成	地元	都計道路	緑道自転車道計画
⑧春日町環八拡幅	住民	計画・実施中	住民	都市MP前	一部との助成	ジェネラル	都計道路+コミュニティ道路等	管理 清掃

2. 講演概要

講演は CNCP 蒔田 實委員司会の下、配布された右図に示す「練馬区都市計画マスタープラン：まちづくりカルテ」（製本125ページ版）を用いて、以下の3部構成で行われた。

(1) 練馬区の概要と協働のまちづくり (20分)

練馬区で前都市整備部参事としてこのまちづくり事業を担当されてきた阪田真司氏（現選挙管理委員会事務局長）から、練馬区の概要と、都市計画法に基づく都市計画マスタープラン事業遂行の経緯および平成27年度の改定マスタープランの策定に果たした自主懇談会作成「まちづくりカルテ」の役割について総論的な紹介があった。

(2) まちづくりでの様々な協働事例紹介 (50分)

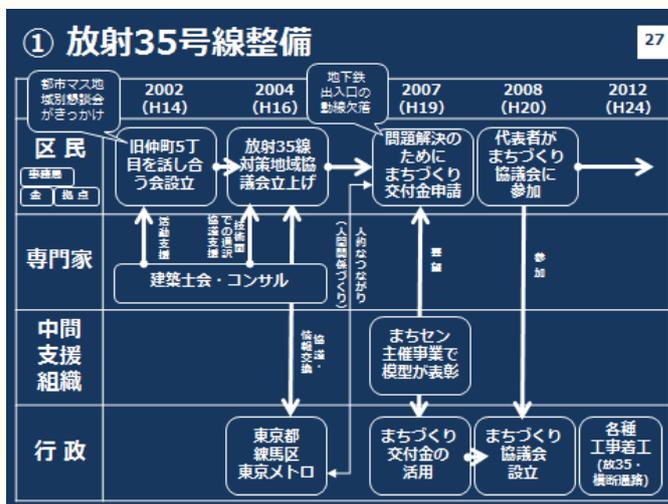
続いて、上記練馬区都市計画マスタープラン自主懇談会のメンバー代表的である奥村隆史氏と久村克彦氏により、上表の8つの「協働まちづくり」事例の紹介があった。これらは事例集として、「まちづくりカルテ」で写真や図表を使って分かりやすく説明されている。

それぞれの事業の概要に加えて、区民、専門家、中間支援組織、そして行政が事業によっては10年に及んだ相互協議が、例えば右図に示すように時系列的に整理して説明され、協働事業のあるべきプロセスを理解することができた。

(3) まちづくりにおける住民への技術支援と助成 (20分)

練馬区環境まちづくり公社みどりのまちづくりセンター所長の小場瀬令二氏は、上記8つの事例を前頁表に示すように整理、統括され、まちづくりセンターの役割を‘火種を見つけ、興し、扇ぎ、大火する’と例えて説明されたほか、‘いろいろな住民との協働と課題’や‘協働のための専門家のタイプ’といった紹介は、参加者にとって大いに参考になった。

また、議員さんからのプッシュや行政の下心があつたわけではなく、行政の思い腰を上げさせるには住民側の強い働きかけが重要であること、そしてだからこそ、前頁表の右端欄に追記されているように、そうした施設が完成した後もその管理清掃等に住民が関わっていることの成果に結びついている。



3. ワークショップ「事例に学ぶ」(ファシリテーター：CNCP 松本健一委員)

全員33名の参加者のうち、講演者、ファシリテーター、事務局、早退者を除いた24名が、5つのグループに分かれワークショップ(WS)形式の意見交換を以下の手順で行った。

- 1) まず最初の10分で各自が、①協働の事例についてさらに知りたいこと、②講演を聴いて気づいたこと、③自分の経験やスキルを活かしてできそうなことを、それぞれ思考し、それを3色のポストイットに記入することから始めた。
- 2) それらをベースにグループで話し合い、異なる意見を補完し意見を整理した後、グループごとの論点を発表し、それに関わるポストイットをホワイトボードに仕分けして貼り付けていく(右図参照)。
- 3) 5グループ統合して仕分けられた論点の内、いくつかについて講演者が説明を加える。



4. 総評

講演そのものについてはアンケート結果でも多くの評価を得ているが、WSについても時間が1時間と少なく成果は限られたが、今聴いたばかりの講演を今一度思い起こし、他の聴講者の意見も参考にできる等、単なる講演プラス数人によるQ&Aとは趣を異にしたセミナーの進め方として今後も継続したいと考えている。アンケートにも記載の多かったWS時間を少なくとも2時間とすることや、WSを伴う場合は全員が「ふりかえりシート」を利用して自らの論点整理をすることが必要である等、主催者が学ぶことも多く、次回以降の本セミナーに反映させたい。